

つくば・市民ネットワーク議会通信 第14号

発行:つくば市議会「つくば・市民ネットワーク」議員団 永井悦子・瀬戸裕美子

つくば市千現1-18-5-101 Tel & Fax:029-859-0264

E-mail:tsukubahotnet@ybb.ne.jp ホームページ:http://www.geocities.jp/tsukubahotnet/



市民のための利活用が期待される春日庁舎

新市庁舎着工！ 現庁舎はどうするの？

市政の窓口はどっち？

平成22年オープンを目指し、新市庁舎の工事が始まり、新市庁舎の工事が始まり、現庁舎の現況調査の結果、春日支所がそのまま使え、大穂支所はバリアフリーの工事が必要、豊里支所は耐震工事をしても書庫程度の使用に限られ、筑波・桜・谷田部・茎崎の各支所は耐震性や老朽化の問題で改修費用に見合う施設利用は難しいとのこと。

保健センターなどを含めて現在市役所内部で検討中。また、今は庁舎内にある社会福祉協議会などの関連団体は新庁舎に入れないということ。しかしこのような情報はほとんど市民に知らされていません。検討状況がもっと早い段階から市民に提示されるべきです。そしてどの施設がどのような役割を担っていったらよいか、地域の人々が行政とともに考えることが、地域の活性化につながるのではないかと考えます。

現庁舎を活用して 市民が集う場所づくりを

去る2月24日、つくば・市民ネットワークでは「市民活動の拠点づくりの集い」を開催しました。市民活動をしているつくば市内外の十数名が集まり、それぞれの活動で抱えている悩みを出し合い、活動拠点の必要性について話し合いました。現在、多くの市民団体は公民館や市民活動センター、社会福祉協議会、中央図書館などで活動を行っています。どこも手狭です。

支所や公共施設の見直しをきっかけに、市民活動センターの拡張や総合福祉センターなど、十分な広さと設備を持つ市民活動の拠点を交通の便利なところに作ってはどうでしょうか。子育て支援、男女共同参画、障がい者支援、環境保全など、いろいろな活動に参加する市民が気軽に交流する場ができれば、自分たちのまちを自分たちの力で住み良くしようという機運が生まれて



くると思われます。この夢の実現に向かって市民ネットワークは働きかけしていきます。

レジ袋削減の懇談会が始まる

つくば・市民ネットワークは、市内で環境問題に取り組む他団体と「つくばエコライフフレンズ」を立ち上げ、昨年11月レジ袋の削減を考えるフォーラムを開催しました。市民・事業者・行政の三者ともに、ごみ減量と循環型社会を目指していることを確認できました。この流れを受け、つくば市は3月に「レジ袋削減のための懇談会」を開催し、

つくばエコライフフレンズを含む三者約60名が集まりました。会の冒頭つくば市は「環境モデル都市」への立候補をふまえ、有料化を含めたレジ袋削減を進めたいと説明。事業者・市民団体から各々のレジ袋削減や環境活動の取り組みについて報告し、意見交換しました。第2回懇談会は4月に開催予定です。レジ袋の有料化は県内で

も広がっており、ひたちなか市で今年2月から実施、マイバッグ持参率が80%を越えています。常陸太田市では5月末、笠間市でも6月から実施する予定です。循環型社会の形成は、三者で協力して取り組むことが必要です。市民ネットワークは今回のレジ袋削減を第一歩とし、今後も循環型社会を目指す社会の仕組みを変えていきたいと考えています。

マイバッグでエコライフ!



学校給食センターの計画に 安全と食育の視点を

一般質問項目

1. 学校給食について
2. 生涯学習課の市長部局への移行について
3. 自立支援法について
4. 旧庁舎利活用について



つくば市議会議員
文教福祉常任委員

せと ゆみこ
瀬戸 裕美子



建て替え・改築が予定されている谷田部給食センター

学校給食の冷凍加工品

一連の加工調理品の事件を機に、一般質問で学校給食の安全性について、聞きました。つくば市の学校給食に50%も冷凍加工品が使われている現状に大変驚きました。冷凍加工品のすべてが悪いというわけではありませんが、輸入時の現品検査が行われていない点や、加工自体は国内であっても原料加工・調理加工といくつもの工程を重ねトレーサビリティ（食品履歴）が明らかでない点が心配です。

たとえば「コロツケ」の場合、たまねぎは国産か外国産か、肉は、小麦粉は、パン粉は、農薬は：と、使われている全ての素材について出所や加工過程が追跡できれば安全性の確認が可能になります。生産から調理まで距離が短いほど安全確認はしやすくなります。

つくば市教育委員会は、一年に一度、「学校給食センター運営審議会」を開催しています。ここでは給食の予算と配食日数の協議が主な内容で、献立の内容・食材、問題点について詳しく話し合う場は設けられていません。市は国の食品安全基準に基づいて食材を選んでいると答えています。他市では独自の学校給食の基準を持ち、安全確保の目安にしている所もあります。つくば市もぜひ独自の安全

独自の安全基準が必要

大きな問題は、学校給食について、市が深く関与しない点と大量調理の仕組みになっている点だと思えます。

この策定の過程でぜひ、安心安全な学校給食のあり方も議論し、どんな給食が必要なのか、広い視野で検討してほしいと考えます。

毎日の給食は最適な食育の機会。市内で多品種の農作物を目にする機会も多い子どもたちが、作物に直接触れ、作り手と直接語り合うことができる環境は温かみのある食育を効果的にすすめます。自校式も視野に入れ、くれぐれも、何万食を一度に作るような、機械的な施設にしないでほしいと願っています。



【各会派の賛否結果】

賛成(○) 反対(×) (可決 否決)	結果	つくば・市民ネットワーク	つくばクラブ	つくば市民政策研究会	平政会	公明党	民主党・つくば21	日本共産党	新社会党
	○ 可決	×	○ ×:市川	○	○ ×:埴	○	×	×	×
		*永井 瀬戸	*鈴木、石川 塩田、矢口、冲山 市川、大坪、大久保 (議長:久保谷)	*高野 須藤、柳沢 安井、吉葉 古山	*飯岡 埴、柳田 木村 星田	*内田 馬場 坂本 小野	*宮本 田宮 今井 五十嵐	*滝口 橋本	*金子

※なお、3月議会に「後期高齢者医療制度の抜本的見直しを求める請願」が出されましたが、さらに審議が必要と認められ、閉会中の継続審議となりました。

議会のあり方は 市民と議論を!

このほど、議員定数と費用弁償、報酬、政務調査費の4項目の審議をする議員定数等調査特別委員会が計10回を経て、終了しました。結論は、費用弁償を今年の改選後、現行の1人1日500円から200円に減額、その他の3項目は現状のままとりました。

経費削減と銘打って議員定数を削減する自治体もありますが、議会・議員の役割を果たすために報酬の総額はそのまま議員数を増やす形もあり、議会のあり方が大きく問われています。

市民ネットでは広く市民と議論し求められる議会・議員を検討していきます。



基準をつくるべきです。

学校給食の環境と食育

市内6箇所、5箇所が老朽化し、建て替えや改築の必要性が出てきたため市は今年度、学校給食センター整備基本計画を策定します。

75歳以上の後期高齢者だけを切り離して、新たな医療制度が4月から始まりました。市町村ごとの運営である国民健康保険とは別に、都道府県ごとに新たに組織される医療広域連合が運営することになり、これまで夫や子供の扶養となっていた人も保険料を支払うことになりました。介護保険料とあわせ、負担はおおむね月1万円、しかも一部を除いて保険料は年金から天引きされます。また保険料は医療費全体がふくらめば値上げされていきます。

市民ネットとしては、高齢者の安定した老後を脅かす後期高齢者医療制度にはどうしても納得できず、関連する議案には全て反対の姿勢をとっています。国が

納得できません! 『後期高齢者医療制度』

必要な医療を保障し、最低限の負担で安心できる老後を送ることができるよう整備するべきと考え、今後も国や県への意見書提出などを働きかけていきます。

つくば市議会議員
環境経済常任委員

ながい えつこ
永井 悦子



一般質問項目

1. 「環境モデル都市」立候補について
2. 風車訴訟について
3. リサイクルプラザの基本計画策定について
4. 補助金制度について
5. 中期財政見直しについて

環境モデル都市を 市民と共に進めよう

つくば市が

「環境モデル都市」に立候補

地球温暖化が世界規模の問題となつて、昨年のサミットでは「温室効果ガスを2050年までに50%削減」という目標が掲げられました。また日本は、今年7月開催予定の洞爺湖サミットで低炭素社会の実現に向けて具体的提案をしようとしています。

このような動きを受け研究機関が集中するつくば市で、**昨年12月3日（環境、経済、エネルギー）フォーラムが開催され「つくば市で2030年までに温室効果ガスを50%削減する」宣言を発表しました。**この遠大な目標を持つフォーラムは、つくば市の温暖化対策の鍵となるべきものでしたが、残念ながら実態は研究者の発表の場でしかなく一般市民には広く知らされないうまま大きな動きをつくるには至りませんでした。

ところが2月市議会の全員協議会で国が選定する「環境モデル都市」につくば市が立候補するとの報告があり、3月本会議では関連事業費510万円の計上もあつて質問が集中しました。立候補の理由や内容について「大学・研究機関と連携し環境技術を生かしたつくばらしいものを行う」というだけで、具体的には「立

候補すること」「それに当たり市長公室に環境都市推進室を設けること」以外説明はありませんでした。

モデル都市事業を

市民参加で進めるためには

CO₂削減には、公共交通や自転車を使い車の利用を控えることが大変有効ですが、そのための交通システムの見直しには利用者である市民の意見を生かすことが重要です。また環境技術の実証を市民の協力を得て行うことも必要です。このように**モデル都市事業は、研究機関はもとより市民の参加協力無くしては成功しません。**市は、風車設置のような失態を防ぐためにもモデル都市となつて何を行うか、

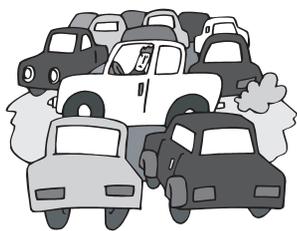
どう進めるかについて大学・研究機関との協議だけでなく、市民と共に話し合うこと、そのために開かれたつくば市として全ての情報を市民に知らせ積極的な取り組みをして欲しいと思えます。

またこれまでほとんど無かつた官学連携が3Eフォーラム開催で進み、**モデル都市事業を民間事業者も含め文字通り産官学、それに市民を巻き込んだ複合的事業として進めていくことが必要だと考えます。**



公共交通優先の街づくりを目指そう

つくばは車優先のまちといわれていますが、高齢社会や温暖化対策に公共交通の充実は不可欠です。そこで、**3月28日インフォメーションセンターにて「公共交通からまちづくりを考える市民集会」を開催しました。**



筑波大学大学院システム工学の谷口綾子先生からの話題提供では、「車はとても便利だが、交通事故の確率は地震や飛行機事故より高い」、「電気やガスのさまざまな省エネに励むより、**1日10分車を走らせないほうが十倍もCO₂を削減できる**」、「マイカー依存度が高い国ほど肥満度が高い」など、目からうろこの話が盛りだくさんで今日からでも車に乗る回数を減らしたくなるようなお話でした。

参加者から「利用者が少ないエリアは福祉タクシーのような制度を広げたほうが効率的では?」「せっかくノンステップバスがあるのに、いつどこで乗れるか分からない」など、利用者としての率直な声が多く出されました。

市は平成20年~21年につくバスなど公共交通の全面的な見直しを行います。当事者参加で検討してこそ、多くの市民の役に立つ公共交通体系ができるのではないのでしょうか。



リサイクルプラザ基本計画見直し 「請願不採択に」

つくば市では新たなリサイクルプラザ建設のため「リサイクルプラザ（仮称）基本計画案」を策定しました。しかし、その内容は今の施設の建て替えにとどまり、リサイクルを積極的に推進するものではありません。そこで、その再審議を求め、環境問題に取り組んできたネットを含む10市民団体が請願を行いました。請願は不採択となりましたが、市は今後、実施計画の策定にあたり、十分な検討、見直しを行うと表明しました。啓発施設の充実、分別収集方法の見直し、つくばに相応しい先進的なゴミ減量化・再資源化政策などが確実に実施されるよう、注目していきましょう。

壊れた風車

4月1日の強風で市が設置した風車のうち1基の羽根がちぎれて崩れ落ちました。幸いけが人はいませんでしたが、部品が約20メートル離れた車の屋根を直撃。

そもそも風車は安全性を考へ人気の少ない山間部や海岸線に設置されます。しかし**つくば市の場合、最も安全性が求められる学校の敷地内に設置されたのです。**だからこそ今回の事故は非常に深刻です。風車の機種選定・設置場所を含め、事業計画や進め方について問題はなかつたか徹底検証し、市や議会は市民に対して説明会開催など丁寧な対応をすべきです。



つくば・市民ネットワーク議会通信 第14号

発行:つくば市議会「つくば・市民ネットワーク」議員団 永井悦子・瀬戸裕美子
 つくば市千現1-18-5-101 Tel & Fax: 029-859-0264

E-mail: tsukubahotnet@ybb.ne.jp ホームページ: http://www.geocities.jp/tsukubahotnet/

市民ネットワークの三原則

1. 原則2期で新人と交代
2. 議員報酬は市民活動へ
3. 選挙はカンパとボランティアで

つくば・市民ネットワークの 主な活動報告

- 1/ 7 街頭議会報告
- 22 八ツ場ダム住民訴訟公判傍聴
- 25 議員定数等調査委員会
- 2/ 3 大豆畑トラストまとめの会、味噌作り
- 5・6 議員と話そう!会 (5日:ごみ出前講座)
- 7 生ゴミ処理機見学、3Eカフェ参加
- 16 学校給食全国集会参加
- 17 つくば・市民ネットワーク第4回総会
- 18 議員定数等調査委員会
- 23 茨城有機農業推進フォーラム参加
- 24 市民活動の拠点作りの集い
- 24 市景観まちづくり懇談会参加
- 26~3/18 3月定例市議会
- 3/ 1 DV被害者支援講演会参加
- 5 市学校給食センター運営審議会傍聴
- 6 流山市リサイクルプラザ見学
- 15 防災と福祉のコミュニティ作りを考えるシンポジウム参加
- 17 TX関連まちづくり推進特別委員会
- 19 市自立支援懇談会参加
- 23 街頭議会報告
- 25 市レジ袋削減のための懇談会参加
- 28 つくばの公共交通を考える市民集会
- 31 3E市民カフェ参加
- 4/ 3 風車事故現場視察

つくば・市民ネットワークは、市民活動を通して生活と政治は切り離せないと感じ、2人の代理人を市議会に送り出し、まちづくりを暮らしの中から提案しています。

市民ネットワークでは、市政や地域の課題について調査・研究を行い、会員相互の話し合いで政策を決定しています。

議員は原則2期で交代、特権化・職業化しません。議員報酬を市民ネットワークの活動費とし(下図参照)、選挙はカンパとボランティアで行います。

市民感覚を大切に、市民参加で議会・市政を変えていこうと活動しています。皆さんの参加をお待ちしています。

(ホームページ、議会速報、ネット通信で活動をお知らせしています。)

市民ネット・08年度の政策

1. 市民参加ができるまち

- ・政策立案への市民参加促進
- ・審議会等公開条例の実現
- ・税金の使い方を分かりやすく公開
- ・議会の公開(議員の賛否公開、議会中継、開催日の工夫)

2. 安全で安心して暮らせるまち

- ・学校給食の安全性確保
- ・災害等の危機管理の見直し
- ・研究機関の安全確保
- ・遺伝子組換え作物の監視
- ・地域の魅力を生かすまちづくりの推進
- ・環境保全型農業の推進

3. 住みやすい環境のまち

- ・レジ袋有料化による削減
- ・給食生ゴミの堆肥化
- ・ごみ減量とリサイクルの推進
- ・温暖化対策の推進
- ・歩行者優先、公共交通の体系づくり
- ・自転車駐輪場の整備

4. みんなで助け合い健やかに暮らすまち

- ・障がい児・者福祉の整備
- ・多世代が集う拠点作り
- ・子育て応援の環境作り
- ・教育環境の整備(耐震、学校図書館、食育)
- ・男女共同参画推進体制の強化

暮らしの中からまちづくり
つくば市民ネットワークの目指すもの

こんなふうに使っています

政務調査費

市議の政務調査費は1人当たり36万円/年が交付されています。2人分で合計72万円/年です。

科目	金額(円)	主たる支出の内訳
研究研修費	31,060	全国市民政治ネットワーク交流集会参加、生命特許を考えるシンポジウム参加、東京学芸大学付属世田谷小学校公開研究会参加
調査旅費	4,920	江戸川区葛西教育プラザ視察
資料作成費	52,139	コピー用紙、印刷機マスター、印刷機インク他
資料購入費	93,690	新聞購読料、月刊ガバナンス、書籍
広報費	345,450	つくば・市民ネットワーク議会通信印刷費
事務所費	194,040	印刷機リース代
その他の経費	315	振込み代
合計	721,614	

(2006年4月~2007年3月)

報告書・領収書を市に提出し、年度末に残金がある場合は市に返却します。

議員報酬

つくば・市民ネットワークの活動費 (2007年1月~12月)

【収入】
 前年度から繰越 332万円
 会費・寄附など 628万円

【支出】
 事務所賃貸料など 412万円
 光熱水費 11万円
 人件費 248万円
 備品・消耗品費 39万円
 ネット通信発行費 48万円
 調査・研修費など 105万円

【次年度へ繰越】
 397万円
 (積立350万円を含む)

